The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	大阪大学創立五十年を迎えて
Author(s)	山村, 雄一
Citation	大阪大学史紀要. 1981, 1, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/10474
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

大阪大学創立五十年を迎えて

大阪大学総長　山村雄一

大阪大学は昭和六年の創設であって、旧七帝国大学の第六番目に誕生し、今年その創立五十周年を迎えることになった。

半世紀といえば、古い伝統と歴史を誇る欧米の大学に比べて、問題にならないくらい新しい大学といってよいかも知れないが、太平洋戦争とその前後にわが国の経験した歴史を考えると決して短かいものではなかった。ことにこの半世紀の学問の軌跡を考えると、半世紀の重みは私達の肩にのしかかってくる思いがする。さらに、加速度を加えながら急速に進歩しつつある領域のことを考えると、近年の半世紀は昔の数世紀に匹敵するのではないかとさえ思われる。このようにしてわが大阪大学は一つの歴史を持ち、独特の伝統を形成してきた。

大阪大学は初め理学部と医学部とから成る大学として創設され、二年後工学部がこれに加わって三学部から成る大学として出発した。このうち理学部は初代総長長岡半太郎先生の構想にもとづいて、当時における最高の、しかも学閥にこだわらず、若々しい教官をあつめ、斬新かつ先端的な学部として作られた。まさに輝くばかりのスタッフと言ってよく、そのことは後年におけるこれらの先輩のすばらしい業績によっても明らかである。

医学部と工学部の歴史はそれぞれ既存の大阪医科大学と大阪工業大学を母体としているが、その歴史をさかのぼるといずれも古い歴史を持っている。ずっと古くまで歴史をたどると、昨年修復が完了した「適塾」にまでさかのぼる。

ここに三つの学部の歴史をとり上げた理由は、このような大阪大学創設の経緯が、大阪大学のもつ特徴を浮き彫りにしているからである。医学部と工学部は大阪という土地の上に、大阪の人達によって作られ、育てはぐくまれてきたものを受けついだもので、古くよき大阪の伝統と切っても切れないものをもっている。これに対して理学部は新しく外から移入され、新鮮でグローバルな感覚に溢れていた。古さと新しさ、伝統と創造、歴史と展望とが入りまざり綾をなして、五十年前の新生大阪大学を支えていたのである。何ものにもこだわらぬ力強い町民の意識や、新しさを求めて前へと進む創造的科学的精神が、その後の大阪大学の伝統の中核となったのは、このような背景にもとづくのであろうか。

伝統は所詮「人」によって生み出され、受け継がれてゆくものである。しかし、単なる伝承によるものでのみで、伝統はつくられもしないし、存在もしない。伝統には創造をともなうことが必要である。つまり「人」による創造である。その意味で大学こそ伝統の名にふさわしいものを持つべきであり、大阪大学の伝統は「人」による創造の連続によってその伝統がつくられてゆかなければならない。

大阪大学の五十年の伝統を守り、その継承のための創造の槌の音の一層高からんことを、五十周年を期に祈りたい。